

# 景況感の改善を背景に、 上昇が期待される米国株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

トランプ大統領が就任後、矢継ぎ早にパイプライン計画などの大統領令に署名し、市場ではインフラ投資や規制緩和などの政策実現へ期待が高まったことなどから、NYダウ工業株30種平均は1月下旬に史上初となる2万米ドルをつけました。その後、同大統領の移民政策や保護主義的な貿易政策などに対する懸念などから、株価は軟調な展開となりましたが、足元では再び高値圏となっています。

米国景気に目を向けると、雇用市場は雇用者数を中心に改善基調が続いているほか、昨年上期に落ち込んだ経済成長率も下期には堅調な個人消費を背景に緩やかに持ち直しています。1月のFOMC(連邦公開市場委員会)では、事前の予想通り政策金利が据え置かれた一方で、声明では「消費者と企業の景況感が改善した」とされ、大統領選後の景況感の改善を評価しています。個人の景況感は、所得増や株価上昇に対する期待などを背景に高水準に達し、消費者が今後の成長加速を見込んでいるとみられるほか、企業の景況感も製造業・非製造業ともに改善基調が続くなど、今後の企業収益拡大への期待が高まっています。

また、トランプ大統領は米国内の雇用増加を重視する方針を掲げていることから、大企業を中心に新規雇用計画数が急増しています。既に改善基調にある雇用市場で今後も雇用増加が続けば、緩やかな上昇に留まる賃金も上昇の勢いを増す可能性があります。さらに、同氏は規制改革を幅広く進める方針を打ち出しており、今後、企業寄りの規制緩和が行なわれれば、企業収益の追い風になると考えられます。

トランプ大統領の過激な発言や政策に対する懸念が高まった場合、株価は短期的に大きく変動する展開が予想されます。しかし、米国経済は大統領選挙以前から回復基調が続いていることに加え、足元の景況感の改善は、今後の実体経済の回復を後押しすると考えられることなどから、米国株式は中長期的に上昇基調が続くと期待されます。

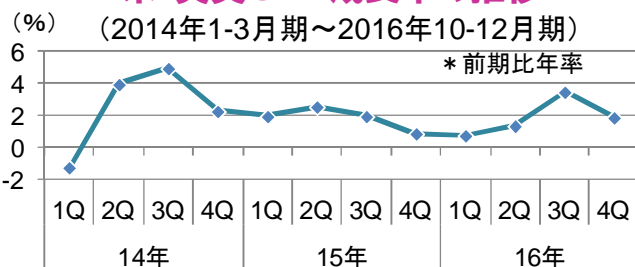
## 米国株式の推移



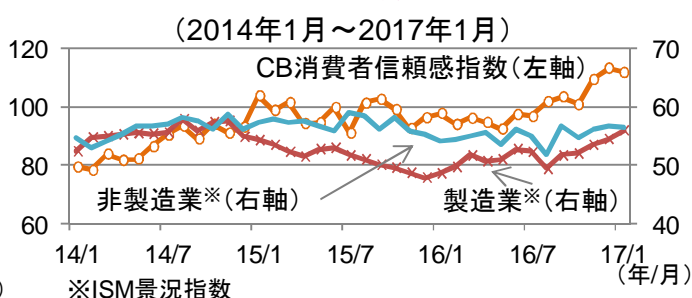
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

## 米・実質GDP成長率の推移



## 米・景況感指数の推移



日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。